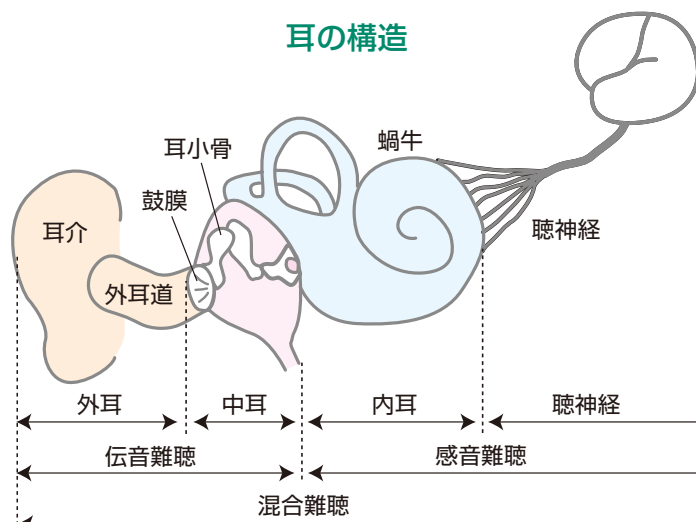


聞こえのしくみ

私たちが音を聞くと、音は耳介から外耳道へと伝わりその奥にある鼓膜を振動させます（こまでを外耳といいます）。鼓膜の奥は中耳といい、鼓室と呼ばれる空間があります。中耳の鼓室には耳小骨という小さな骨があり、内耳へ音を効率的に伝えていきます。内耳には音を感じる有毛細胞があり、そこで感じとった刺激を電気信号に変え、聴神経を通じて脳の聴中枢へと送ります。音声の判別にとって大事な役割をしているのが、カタツムリのような形をしている内耳にある有毛細胞です。この有毛細胞が何らかの原因で欠損することにより、音を聞いたり、言葉を正しく聞き取ることが難しくなります。



聴覚障害って、どんな障害？

聴覚障害には3つの種類があります。伝音難聴、感音難聴、伝音難聴と感音難聴の両方を併せ持つ混合難聴の3種類です。

伝音難聴は外耳や中耳に障害部位がある場合をいいます。伝音難聴の原因は中耳炎など一般的に医学的治療で改善するものが多くあります。伝音難聴は音が聞こえにくくなるのが特徴です。障害の程度にもよりますが、聞こえのイメージとしては耳栓をしたような状態になります。

感音難聴とは内耳から脳の聴中枢に障害部位がある場合をいいます。加齢のために起こる老人性難聴は感音難聴のことをいいます。一般的には難聴というと耳栓をしたようなイメージにとらわれがちです。しかし、実はそれだけではありません。障害の程度にもよりますが、「音」だけでなく「言葉」も聞こえづらくなるのです。



ヘルプマーク

義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、または妊娠初期の方など、外見から分らなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう、作成したマークです。詳しくはホームページをご覧ください。

https://www.fukushi.metro.tokyo.lg.jp/shougai/shougai_shisaku/helpmark.html



令和7年7月

発行：東京都心身障害者福祉センター

電話 03-3235-2952

とうきょうと しんじきく がく ら し
東京都新宿区神楽河岸 1-1 セントラルプラザ



東京都

再生紙を使用しています

リサイクル適性
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

聴覚障害の理解のために

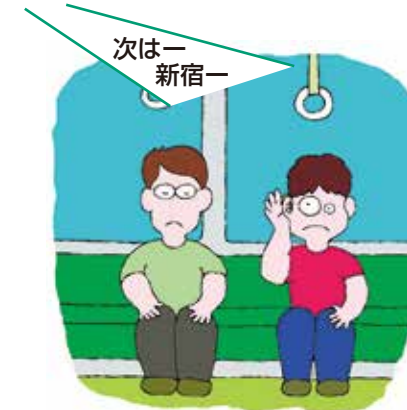
聴覚障害があることは外見では判断しづらいため、周囲に気づいてもらえないことが多くあります。会話だけでなく周りの状況を知るための音の情報が入りにくいことも不自由な点です。全く聞こえない方もいれば聞こえづらい方もおり、障害の程度や状態によって様々な生活上の不自由さがあります。

例えば、こんなことに困ることがあります

人との会話に困ることがあります。



音声での情報が理解できず、アナウンスされてもわからないことがあります。



インターホンや電話の音がわからないことがあります。



音を大きくすれば聞き取れると思われることがあります。



手話を使えばわかると思われることがあります。



声をかけられてもわからないことがあります。



このリーフレットについて

ここで紹介している情報がすべての聴覚障害者にあてはまるわけではありません。相手の目線に立ち、個々の障害の状況に合わせて接することが大切です。「その人」の理解は、障害のあるなしに関わらず、お互いに一人の人間としてつきあう中で育まれるものではないでしょうか。

